

農林水産大臣賞（近畿ブロック最優良事例）

美山町鶴ヶ岡振興会（京都府南丹市）



旧校舎を活用した「のあがりフェス」



「試してみよう！暮らし・人」(稲刈り体験)

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

鶴ヶ岡地区は、南丹市北部に位置する旧美山町の旧村の1つで、18集落（区）からなる。西の鯖街道と言われる国道162号線が南北に走り、日本海側と京都市内をむすぶ陸路の中継地点としての賑わいを偲ばせる史跡や行事などが今も残されている。かつては、林業も盛んで、美山町域の中核地区として旅館や商店街もあったが、過疎化、少子・高齢化の進行により地域の伝統行事をはじめ山村・農地の管理など共同体として機能は顕著に低下している。

そのような中、平成10年に農協支所の閉鎖問題が浮上。地域住民は何度も話し合いを繰り返し、自らの出資で農業と福祉の機能を併せ持つ食品・日用雑貨販売店「有限会社タナセン」を設立した。その後も地元小学校の閉校などの課題が生じるが、平成13年に設立した美山町鶴ヶ岡振興会を中心に「自分たちのことは自分たちで考え行動する」活動を展開している。

（２）むらづくりの内容

鶴ヶ岡振興会は、『住み続けられるまちづくり』をキャッチフレーズに、誰もが住み続けたいまちを目指し「にぎわう地域づくり」、「やすらぐ地域づくり」、「かがやく地域づくり」、「うるおう地域づくり」及び「つながる地域づくり」の5つの目標を掲げた“鶴ヶ岡地域振興計画”を策定し、住民アンケートに基づく“推進プラン”の下、18集落（区）の幅広い年代層が連携して定住促進や都市農村交流活動など多くの活動を展開している。また、住民出資の有限会社タナセンによる食品・日用品販売、大豆やソバなどの受託生産と高齢者等無償移送サービスなど、住民生活や農業を下支えする取り組みと両輪で地域住民の生活を支えている。

中でも、美山の豊かな食材や森の文化を活かした小・中学生の「農家宿泊体験学習」の受け入れ、「稲刈り体験」や「栃もちづくり体験」など地域の生活・文化・伝統を守り活かす活動、さらにはジビエ料理や季節に応じた地域食材を活用した若者グループによる「ムラガーレ食堂」の営業、旧校舎を活用した音楽と食の祭典「のあがりフェス」などの取り組みは、地域の若者や移住者も参画し、伝統文化と新しい企画を融合させた活動となっており、コミュニティ強化のみならず、地域を次の世代に引き継ぐ活動としても期待されている。